

特集：4・4・4制に向けて



「高校生と豆まき大会」

## 「新しいぶどう酒は新しい皮袋に」

理事長 福塚敏彦

聖書の中に、「新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなさい」(マタイ福音書9:17)というキリストの言葉があります。この時代ぶどう酒は皮袋に入れて運んだのですが、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れて運ぶと、ロバの背で揺られている間に発酵が進み、弱っている皮袋を破ってしまうのです。新しいキリストの教えを受け入れるためには、私たち自身が生活を改め、新しい人になることが必要だと教えた箇所です。

学園は教育の基本となるカトリック精神や聖ドロン・ボスコの教育法のように時代を超えて継承し続けるものと、時代の要請に応じて、若者や保護者のニーズに対応できる新しい部分を持たなければなりません。

平成23年度は学園にとって大きな変革の年でした。私個人にとっても静岡星美中学・高等学校の時代から、40年間働いてきた教員としての現

職を去ることは寂しさを覚えました。いつかは若い後任の方々に道を譲らなければなりません。幸い末吉弘治先生が、小学校・中学校・高等学校長を兼務してくださり、静岡サレジオがまさに文字通り一貫教育の形を整える布石となってくれました。さらにサレジオ幼稚園の内田泉シスターの転勤に伴い、小学校教頭だった国吉健二先生が幼稚園長に就任したことによって、これも長年の課題であった、幼児教育における幼稚園・小学校連携の取り組みをスタートさせることができました。

そして昨年5月、上智大学との教育提携を結ぶことによって、同じカトリックの精神で3歳から22歳まで、幼児期から青年期にいたるサレジオ教育を、より充実したものとなる教育ビジョンとして打ち出すことができました。宗教教育を土台に、祈り、学び、遊びや活動を通じて、他者への思いやりや感謝する心を育てると共に、特化した教育システムを通して、論理・表現・コミュニケーション能力を伸ばし、国際貢献できる人材を育てていきたいと願っています。

## ドンボスコの学校を目指して ～静岡サレジオの挑戦

中学校教頭 沼波 岳臣

昨年5月、静岡サレジオは上智大学と教育提携を結びました。今年いよいよその教育活動がスタートします。この教育提携は、単に上智大学への推薦枠を得るためのものではなく、真の学力を身につけ、真の人間教育を行うための教育提携なのです。今回はその具体的な内容を皆様にご紹介したいと思います。

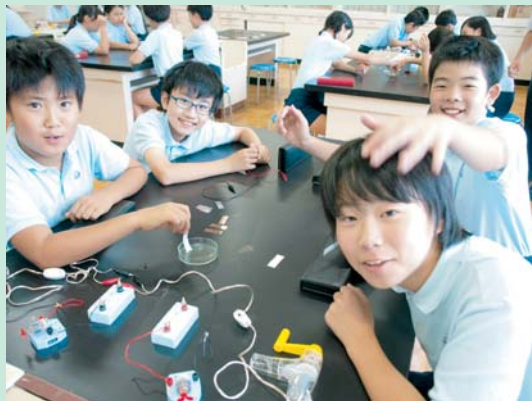


まず大きく変わるのが従来の小学校6年・中学校3年・高校3年の6・3・3制から【小学1年～小学4年】・【小学5年～中学2年】・【中学3年～高校3年】の4・4・4制への変更です。これは日本の教育システムへの大きな提案でもあります。特に近年これまでの教育システムにおいて様々な問題が出てきました。少子化で高校大学全入時代となり学習意欲のないまま高等教育機関へ進学する生徒の増加、中1ギャップ、根強く残る学力偏重主義など。静岡サレジオと上智大学はそれらの問題の解決策の一つとして、この4・4・4制を提案し実践していくこととなりました(表参照)。

※【静岡サレジオの4・4・4制】

小学校	中学校	高等学校
<b>Primary Stage</b> 〈プライマリー ステージ〉 小学1年～小学4年	<b>Middle Stage</b> 〈ミドル ステージ〉 小学5年～中学2年	<b>College Stage</b> 〈カレッジ ステージ〉 中学3年～高校3年

この実践にあたり、一番重要になってくるのがMiddle Stageの4年間(小学5年から中学2年)です。身体が急激に成長するこの時期は、学ぶ意欲、共に生きる心、情熱を



傾ける趣味との出会い、本当に大切なものを知る価値観の涵養など、これからの人生の中で大切な土台となる部分を育む時期でもあります。この大切な時期をすべての面で一括りに「小学生」「中学生」と分けてしまったことが様々な問題を生んでいるように思います。ある場面では小学生と括られることが小学5・6年にとって大きく成長できるチャンスをつぶしてしまい、ある場面では中学1・2年が中学生として扱われることに精神的に耐えられない場面が出てくる。それらの問題に対して4・4・4制の体制により柔軟に対応できるようになると考えています。

例えば小学校から段階的に担任制から専科制に移すことで、中学とのギャップを少なくするだけでなく授業がより深く充実したものとなります。また中学生になっても担任がなるべく教室内で共に過ごすことで、小学校のときのような教室の雰囲気の中で安心して学校生活を送ることができます。朝礼の話も小学生・中高生として聞く日と、Middle Stageの児童生徒として聞く日をそれぞれ設け、それぞれの時期にそれぞれの社会の中で必要な話を聞くことができるようになります。



学習面においては表面的な基礎基本の徹底で終わらせるのではなく、学問の本質に触れる学習、深く探究する心を育みます。例えば習熟の差が表れやすい算数はMiddle Stageスタート学年の小学5年から習熟度別授業を取り入れ、それぞれのレベルの中でわかる喜びを共有し、チャレンジする精神を育てます。また上智大学との教育提携により英語の学習も本格化。小学校の間はオーストラリア修学旅行に向け実践的な英会話と、応用するための基本的な文法事項を学び、英語で表現する機会を数多く提供していきます。中学からは習熟度別に授業を展開し、一人ひとりが自分のレベルに応じた表現方法を学び、英語を話せるようになりたいという好奇心を全員が持てるような授業を展開していきます。表現面で重要となる国語も本校の中心科目。読解中心の授業に終始せず、自分の表現に結びつける授業を展開し、より高いレベルの表現方法を学んでいきます。

当然、学習だけでは真の人間教育にはなり得ません。例えば部活動も大切な教育の場。ドンボスコは健全な青少年の育成のために、スポーツ・芸術(音楽・演劇)は欠かせないものであると伝えています。これらのものを通して達成感や充実感、挫折やそれを助けてくれる仲間や先輩後輩との出会いなどたくさんのことを得ることができます。しかしこれらのものは中途半端な活動では得ることはできません。全員の中に真剣に向かう気持ちが伴ったとき、初めて何ものにも代えがたい大切なものを得ることができるのだと思います。



部活動以外にも様々な場面でMiddle Stageの児童生徒たちが真剣に関わり、お互いを身近な目標として切磋琢磨できる環境があるのもMiddle Stageの大きな特徴です。祈り、清掃活動、ボランティア活動、合唱コンクールや発表会。「何事も前向きに真剣に取り組む学校。」それがドンボスコの目指した学校であり、これから静岡サレジオが目指す姿です。

## 中学・高校 体育祭

今年度は天候に恵まれ、予定通りの10月26日晴天の中、中学・高校の体育祭が行なわれました。

毎年恒例でもある、各学年の応援合戦では、それぞれの学年が工夫を凝らし、少ない練習時間でしたが、各々の思いが込められたパワー漲る応援が見られた気がします。



また今年度の新種目「スクラム(高校男女クラス別対抗)」では、各クラスの団結力が見られ、昨年の漢字一文字にも選ばれた「絆」が生まれました。総合結果は、貫禄を見せ付けた中学・高校3年生の青組が優勝しましたが、クラスリレーでは下級生も力を見せ、白熱した体育祭を行うことができました。

### 高3 体育委員長の感想

今年もたくさんの笑顔が見られました。全学年の嬉しそうな顔、悔しそうな顔。みんなが1つの目標に向かって勝負しているのだなと、改めて実感させられた瞬間でした。自分のクラス、学年を応援し、時には他のクラス、学年、部活の仲間を応援する姿は、本当にサレジオの良い所だなと感じました。このような体育祭を作り上げて下さった先生方に感謝して、来年も頑張りたいです。

学 年	高校クラス別		中学クラス別	
優 勝 青組	優 勝	3 3 HR	優 勝	2 A HR
第2位 緑組	第2位	3 A HR	第2位	2 B HR
第3位 赤組	第3位	2 3・1 3・1 A HR	第3位	3 A HR
クラスリレー	高校男子	高校女子	中学男子	中学女子
1 位	2 2 HR	2 3 HR	2 A HR	3 A HR
2 位	3 A HR	3 3 HR	2 B HR	2 B HR
3 位	2 3 HR	2 1 HR	3 B HR	2 A HR

## 長崎・福岡修学旅行

高校普通科2年生

11月8日から11日までの3泊4日、高校普通科2年生総勢115名は、長崎・福岡に行っていました。夏休み前から、それぞれが長崎や五島に纏わる事柄・名物・料理・菓子などについて調べ、勉強していきました。その中で原爆の悲惨さを学んだはずでしたが、1日目に行った原爆資料館では想像以上の恐ろしさがありました。特に語り部の方のお話を聞いた時、被爆体験の生々しさに涙を流す生徒もいました。それだけ心の中に響き、自分が現代に生まれ、平和の中で生きられることに感謝すると共に、

次世代へと受け継いでいかなければならないものだと強く感じたようです。2日目にはフェリーに乗り、上五島へ行きました。到着するとすぐに住民の方々のおもてなしがあり、「遠いところから来てくれてありがとう」の一言に優しさや温かさを感じました。歴史のつまった綺麗な教会の素晴らしさ、またおいしい五島うどんをご馳走になり、ただただ感動するばかりでした。3日目は各班が自分たちで準備した班別研修を行い、最終日には福岡の太宰府天満宮で、進路成就のお祈りをしてきました。今回の修学旅行で平和の大切さを学び、人の温かさを感じた4日間でした。



### 生徒の感想

戦争について学ぶことが多く、命の大切さ、戦争の恐ろしさを感じました。日本にも他の国にも戦争のない世界となるように、小さいことでもよいから、一人一人が平和のために何かをしていくことが大切だと学びました。またクラスで一緒に行動することで、より一層、仲間意識が高まった気がします。

## 「一芸」をいかして

ービーデスアカデミックアクト開催ー

10月23日(日)今年で2回目となるVIDES ACADEMIC ACT(ビーデスアカデミックアクト)が開催されました。これは、本校の有志ボランティアグループVEDES静岡が、「一人ひとりの得意なことをいかして、ボランティアへの関心を高めよう」というコンセプトで行われているチャリティイベントです。

今年もフィリピンボランティア研修の報告会やネグロス島の青少年のための就学支援募金を中心に、たくさんの中高生とそこご父母の皆様、そして本校の卒業生や教職員の協力を得て、6万円を超える寄付を集めることができました。

さらに、今回は初めて小学生の漫才コンビがステージ部門に登場し、息のあったネタを披露して、たくさんのお客様を動員、おおいに会場を沸かせてくれました。

ほかにも、東北大震災に関連して復興ボランティアに参加した高校生や東北名物の直売コーナーが設けられたり、ホームメイキング部のアクセサリー作りやイラスト同好会の似顔絵コーナーがあったりと体験型の展示も増えました。ある先生からはご自分のワールドサッカーユニフォームコレクションからオークションアイテムを出品していただいたり、趣味のバンドのご友人とブルースのセッションをしていただいたり、先生方のご協力もあって、ますますバラエティに富んだ内容となりました。

ご協力いただいた皆様、

ありがとうございました。



## 進路報告

ー夢へ 未来へ 飛翔するサレジオ生

3 AHR 在原 卓 聖マリアンナ医科大学  
医学部へ進学



長い間抱いていた「医師として、人に尽くしたい」という夢がついに現実のものとして近づいてきました。世のため人のために働く医者をめざし一層がんばります。

3 BHR 立間 桃子 帯広畜産大学  
畜産学部へ進学



本命の大学に、早い段階で進学を決められて、本当にうれしいです。試験直前に遅くまでご指導下さった先生に感謝の気持ちを伝えたいです。ありがとうございました。

3 1 HR 坂本 倫子 上智大学  
法学部へ進学



教育提携後初の、上智への推薦受験者として大きなプレッシャーを感じながらも進路への覚悟や自分自身と向き合う強さを培えたと思います。先生方には丁寧にご指導いただき本当にありがとうございました。

3 2 HR 中村 麻莉 静岡文化芸術大学  
文化政策学部に進学



夏の進路相談以降、厳しい指導が続きましたが、常に自分の「本気」を確かめつつ、悔いのない取り組みができました。念願の大学合格。応援して下さい先生方、クラスメイトのみなさん、ありがとうございました。

## 東北大震災 ～復興ボランティアに参加して

31HR 足野 慶

私は県ボランティア協会のチームとして、支援活動に参加しました。自然の圧倒的な力とそれでもふるさとを甦らせようとする被災地の人たちの真摯さに触れ、「なにができるか」ではなく「できるかどうかやってみる」という姿勢が必要だと感じています。

# 中学校

## 地域に広がる 温かな心 福祉分野で3つの受賞

今年度、本校は福祉の分野において3つの表彰を受けました。

\* 青少年団体等の顕彰

\* 小さな親切実行章

「小さな親切」運動 静岡県本部より

「小さな親切」運動 本部(東京)より

本校は平成2年4月から福祉実践校として福祉活動に努めてきました。初めは静岡市長尾にある「ケアセンター瀬名」を訪問して高齢者との交流を深めてきました。

平成16年4月からは全校生徒での取り組みとして、夏と冬に1000枚以上の「お便りカード」を作成し、手紙を添えて地域の高齢者の方々にお届けしています。近隣のS型デイサービスやグループホームを訪問してカードをお渡しするとともに、歌やダンスを披露しています。このように、カードを通して地域との交流を年々深め、広げてきました。

今回の受賞は、このような継続した活動が認められたものです。今後も地域に密着した明るい温かな活動を通して、福祉の心をお届けしていきたいと思えます。



夏の訪問では、浴衣姿を喜んでいただきました！

サンタの衣装は、かわいいと大好評でした！



## 個性と力の結集 中2 芸術祭

中学2年生は10月29日にマリアンホールで芸術祭を行い、個性あふれる舞台発表に大いに盛り上がりました。グループごとに歌や演奏、ダンス、コントを披露し、最後はクラス別の合唱「夏の日思い出」で締めくくりました。発表内容の検討、パンフレット作成等の準備、進行、裏方までできる限り生徒自身の力で作り上げ、ひとりひとりが持てる力を存分に発揮した結果、終了後の会場は、大きな達成感と一体感に包まれていました。



### 生徒の感想

#### 2A 大石佐橋

初めてのキーボードをやることになり、最初は皆の足手まといになると思いました。けれど、皆「できるよ」と励ましてくれたので、自分なりに一生懸命頑張りました。完璧には弾けなかったけれど、ここまで来られたのはグループの皆のおかげです。

#### 2B 有村武尊

ダンス・コント・裏方・装飾と様々な役目を果たし、裏方や装飾の仕事、そしていつも陰で頑張っている人の大切さやありがたみを感じることができました。ただ一番感じたのは、皆で一つのことを作る楽しさでした。



## 元気コーラス大会

1月30日、マリアンホールにてクラス対抗の「元気コーラス大会」が開催されました。審査基準は「声の大きさ」「クラスのまとまり」「ハーモニー」で、校歌の部と聖歌の部の総合得点で順位を競いました。どのクラスも一つになって練習した成果を発揮し、歌う楽しさを大いに感じることができました。



審査結果	
第1位	2A
第2位	1B
特別賞	2B



### 生徒の感想

#### 3B 櫻田晃市

僕は、今回元気コーラス大会のピアノの伴奏を担当しました。これまで、校歌を歌ったことは数え切れないくらいあるけれど、ピアノの伴奏をしたことはなかったので、最初はとても苦戦しました。でも、楽譜を自分で読みながら練習していくと、だんだん弾けるようになっていくことが楽しくて、何時間も練習していました。本番では、クラスが入賞できなかったのは残念でしたが、またこういう機会があれば再挑戦したいです。

元気な歌声が会場に響きわたりました！



### 生徒の感想

#### 2A 久我享志

僕は、初めは正直乗り気ではありませんでしたが、クラスで責任者に選出され、「こんないい加減な気持ちでは務まらない」と思い、自分が盛り上げるんだという気持ちでやりました。うまく行かない時も、クラスの仲間が助けてくれました。今回の優勝は、そんなチームワークの象徴と言えるでしょう。このチームワークが、卒業まであり続けてほしいと願っています。

#### 1A 久保山恵未

私は、この行事を通じて、歌が持つ大きな力を知ることができました。中学生にもなり、人前で歌うことは、だんだん恥ずかしく感じるようになりました。でも、元気に歌い、元気な歌を聞き、とても幸せな気持ちになりました。クラスの団結力も深まったと思います。もし、また来年この行事をやれたなら、先輩や後輩の心に響くくらい、元気に歌いたいです。

## 6年生 オーストラリア修学旅行

オーストラリア修学旅行は6年生にとって日頃の学習を試す絶好の機会です。この日のために6年生は英語でのあいさつはもちろんのこと、自分から進んで言う一言や質問などを準備してきました。それをシステム手帳に記入し、英会話の実践に向かいます。

①成田空港で外国人に英語で質問しました。「Where are you from?」,「What Japanese food do you like?」など活発に質問することができ、オーストラリアに行く前の予行練習になりました。



②シドニーのフードコートで一人ずつ自分の昼食をオーダーします。全員が無事昼食を購入できました。



③いよいよホストファミリーとの対面です。上手に自己紹介ができました。翌日はそれぞれのホストファミリー宅で休日を過ごします。休日中でも会話が少しできたようです。



④セントメアリー小学校での交流が始まりました。積極的に話しかけている子、手帳を見ながら質問をする子、友達に助けられながら

勇気を出して言う子、と様々でしたが、どの子からも自分から進んで取り組む姿勢が見られました。



⑤キッズフェアでは「日本の四季」をテーマに、ブースに分かれていろいろな体験ができるようにしました。プレップ(日本の年長に当たる)の子たちから6年生まで全員と楽しく過ごすことができました。終始英語で元気よく話しかけ、コミュニケーションを取る姿が見られました。



⑥1週間お世話になったホストファミリーと過ごす最後の夜、サヨナラパーティーを行い、歌や感謝のプレゼントをしました。みんなの気持ちが一つになりました。



⑦お別れの朝です。名残惜しくなかなかバスに乗り込むことができません。涙をこらえながらも、最後の感謝の気持ちもしっかり英語で言えました。





## 生活科 秋祭り

2年生最大のイベント「秋祭り」。今年はどんなコーナーを作って、みんなを喜ばせたらよいかと話し合い、準備をしてきました。もちろんどんぐりやまつぼっくり、紅葉した葉っぱなど秋の物を使うことが約束です。「ゲームコーナーを作って楽しんでもらおう」「自分でアクセサリを作ってもらうのもいいかな」などなどたくさんの意見がでました。

その中から、それぞれのコーナーに分かれ、準備開始です。「1年生や年長さんは、できるかな」「6年生はもっと難しくてもいいのかな」「数はどのくらい用意したらいいのかな」などなど準備していくうちに、問題がたくさん出てきました。

さて、いよいよ秋祭りの日が来ました。まず、サレジオ幼稚園の年長さんが来てくれました。「いらっしゃいませ。」「楽しいですよ。」と明るい声で、秋祭りを盛り上げます。

次に来てくれたのは1年生です。年長さんの時と同じようにわかりやすくゆっくり話してあげたり、やさしく説明をしてあげたりしていました。もうすっかりおにいさんおねえさんになったなど感心しました。ペアさんが来てくれると2年生はととても嬉しそうでした。

昼休みには3年生以上の上級生が来てくれました。2年生の教室は上級生でいっぱいです。「上手だね。」「きれいだね。」「楽しかったよ。」と言ってくれたお兄さんやお姉さんの言葉で、2年生はますます張り切っていました。



## クリスマス会 オペレッタ

昨年12月23日にクリスマス会が行われました。今年のテーマは「みんなを信じて、一歩前進!」です。そのなかで4年生全員が演じたのがオペレッタ「青い鳥」です。

4年生にとってオペレッタは前期課程の集大成です。練習は10月から始めました。台本を読み、配役を決め、動作や台詞の言い方を考えて何度も練習しました。またその一方で声の出し方や発音のしかたなども学びました。通し稽古では、大道具や小道具・衣装・音楽効果・照明・音響などを担当してくれる5年生や先生方の支えがあって初めてオペレッタを演じることができたのだということを知りました。小さな学年の人たちも歌で私たちを盛り上げてくれました。



さて、いよいよ本番です。50分ほどの時間があったというまに感じました。緊張のなかでもこれまでの練習の成果が十分に発揮できたと思います。客席の保護者の皆様や来賓の方から手拍子や大きな拍手をいただいたとき、「やった!」となんとも言えない充実感でいっぱいになりました。

オペレッタで培った表現力や仲間との協力をこれからの生活や学習にも活かしていきたいと思っています。

## 『ムシ! 虫!! むし!!!』



ショウリョウバッタの雄と雌の見分け方、エンマコオロギとミツカドコオロギの違い…、皆さん

はご存知ですか? その答えを探すべく、去年の10月20日に年中組は静岡大学農学部藤枝フィールドへ『虫とり遠足』に出かけました。現地に着くと、虫が潜んでいる原っぱへ一斉に駆け出した子ども達。夢中になって虫を追いかけたり、友達に手伝ってもらって虫を捕まえたりと大興奮! 友達同士での虫捕りの連携プレーはなかなかのもの! 相談したり知恵を出し合ったりして、虫を捕っていました。子ども達の目に入るのは、虫だけではないようで、「せんせい、みて!」とパッと勢いよく向けられた笑顔に添えられた小さな手の中には、花びら、木の実、ネコジャラシ。そしてここでも「原っぱのダンゴ虫みつけたー!」と大好きなダンゴ虫を見つけてニッコリ♪そして、コオロギ捕りを手伝って下さったバスの運転手さんもいつの間にか腕まくり。子ども以上に夢中になっている運転手さんの姿に「おじさんってすごいねえー!」と子ども達は目を輝かせていました。もう一つのお楽しみ、お弁当は青空の下で美味しく頂きました。帰りのバスの中ではそれぞれが虫かごの中を眺めてはニコニコ♪自分より背が高い草や枯葉の感触、土と自然の匂いの中で伸びのびと過ごした一日でした。



## 『ダイコン抜き!』

11月、静岡大学フィールドセンターで年少組が初めて大根抜きに挑戦してきました。行きのバスの中から「朝ごはん2杯も食べてきたよ」「昨日“うんとこしょ”って練習してきたよ」という話で盛り上がるほど、とても楽しみにしていた子ども達。畑には青々と大きく育った大根の葉がずらりと並んでいて、1本を2人がかりで引っぱってもなかなか抜けず…一生懸命引っぱりすぎてしりもちをついてしまう子もいましたよ。力を合わせて抜



いた大根は、1人では持ち上げられないほど太くて大きくて、子ども達は大喜びでした♪

力を合わせて…  
「うんとこしょ!  
どっこいしょ!」

大きなダイコンが  
見えてきた! もう  
少し! 頑張り!!



ヤッター!!  
ダイコン抜けた  
よ! 重た〜い!



大根は幼稚園に持ち帰って、『おでん』にしたり『味噌汁』に入れたり『煮物』にして食べました。自分たちで収穫した大根は格別においしくて、何度もおかわりをしていました。幼稚園でもプランターでミニ大根を育てたり、



大収穫!!

# 幼稚園

## 「能」の観賞とワークショップ

1月20日(金)10時から、宝生流能楽師シテ方、重要無形文化財総合指定(能楽)保持者、佐野登先生をお迎えして、「能」の観賞と能楽ワークショップを行いました。「みて・きいて・やってみる五感フル活動」の内容で約2時間、園児も保護者の皆様も楽しみながら、日本の伝統文化を体験することができました。

### 能面をつけて泣く時の「指導」と園児の実演

「能面をつけて泣く時は、体全体を少し前に傾けて、片手を顔の前にかざします。」と先生からコツを教わり、園児が実演しました。



### 小つづみのたたき方の「指導」と園児の実演

「小つづみは右肩の上に置き、左手で支え、右手の指全体ではたくようにたたきます。」と先生からコツを教わり、園児が実演しました。



### 笛の吹き方の「指導」と先生の模範演奏

小さな笛ですが、低音、高音、小さな音、大きな音、様々な音が出ることに驚きました。まるで歌を歌っているように聞こえました。

### 謡『はごろも』の「指導」と園児全員の実演

先生の謡に合わせて、『はごろも』の冒頭部分を園児全員が何度も唱え暗唱しました。手拍子でリズムを取りながら、「間」の取り方を教わり、ピアノで音程も確かめて下さいました。

♪東遊びの数々に。東遊びの数々に。

その名も月の宮人は。三五夜中の空にまた。

満願真如の影となり。御願円満国土成就。

### 「はごろも」の衣装の紹介と片川先生の試着

赤い布地に金糸で刺繍を施した「羽衣」の衣装は、とても美しく豪華なものでした。



### 謡『はごろも』の「指導」と先生の模範演技

園児全員と助手の佐藤さんの謡に合わせて、佐野先生が能を披露して下さいました。

### 日本の伝統文化についてのお話(佐野登先生)

伝統文化は長い年月を経て先人達が残してきた有益な知恵の結晶であり、日本の伝統文化とは日本人の本質に根ざした有形・無形の知恵を具現化したものです。その様式は多種多様ですが、このプログラムでは能楽という伝統文化を用いて日本という国を改めて見つめなおすことで理解を深め、現代の欧米化した日常生活に結びつけていきます。

自国を知り再認識する過程は、自分を知るというアイデンティティの確立につながります。それは日本人としての基盤を築き上げる作業でもあります。それが出来た上ではじめて様々な発展が成し得、異なるものを理解し受け入れ、共生することができるのです。

## 『もちつき大会』



「サレジオ幼稚園」のお父様達のご協力のもと、もちつき大会が行われました。

子ども達は順番に杵を振って餅をついていきました。「よいしょ！

よいしょ！！」元気のよい掛け声が園庭に響き、和やかな雰囲気になりました。お父様方の優しさに包まれ、子ども達も楽しく参加できました。

ついたお餅をお母様が味付けをして下さりみんなで美味しく頂きました。



「おいしいね！」「ぼくたちがつくったからとくべつだね！」と笑顔がたくさん見られました。「おかわり〜！」とお腹も心も満足な子ども達でした。

『おとうさん、おかあさん

ありがとう！！！！』



## ご案内

☆ サレジオ幼稚園でいっしょにあそぼうよ！  
子育て支援の一環として、「アンジェリーナ」と「星の子ひろば」を行っています。

◎ アンジェリーナ

【時間】10:00~11:30

【日程】毎月1回程度(詳しくは、ホームページ等ご覧下さい。)

◎ 星の子ひろば

【時間】9:45~12:00

・毎週火曜日(2~3歳対象)25名まで

・毎週金曜日(1~2歳対象)25名まで

ホームページよりお申し込み下さい。たくさんのご参加お待ちしております！！

## 新成人の集いを迎えて

後援会 会長 山梨 由博

先日、マリアンホールで行われた新成人の集いに出席させていただきました。集まった卒業生たちからは、学園を離れてからの二年という歳月を感じました。それは、今サレジオに通う高校生たちや小中学生たちとは異なる、卒業生たちの“大人”への変化なのだと思います。

その後、後援会の皆様のご協力のもと、カフェテリアにてささやかな懇親会を開かせていただきました。久々に母校を訪れる卒業生が多いのか、再会を果たした仲間たちや先生方と楽しそうに談笑する姿があちこちで見られました。担任だった先生を囲み、当時のように話をする子どもたちの様子を見ると心が温かくなり、卒業後も変わらない子ども達の様子に喜びを感じました。しかし、私が子ども達の変化を感じるのと同じ様に、子ども達は懐かしさの中にも、先生方や学友の変化を感じ、在学時とは違う立場で訪れた学園内の微妙な変化を感じ取っているようでした。

後援会の目的は、学園の施設設備の推進と教育事業を援助することにあります。学園は、在学する生徒の皆さんにとって充実した学び舎です。それに加えて、サレジオを巣立っていくファミリーにとっても、いつまでも魅力的な学園であり続けることを希望します。そして後援会では、そんな魅力的な学園を支えるお手伝いをしていければと思っております。



## 連絡委員会

同窓会 会長 曾根 幹子

最近の同窓会総会は、街中の会場での食事会と、バス旅行を一年ごとに実施しています。今回の総会は、いつもと違う場所がいいという声もあり、会場探しから始まりました。いろいろと迷っていたところ、偶然葵タワーのブケ東海の方が営業にいらっしゃいました。その方の奥様は以前星美幼稚園に通われていたようで、何かご縁を感じて、ブケ東海に決定しました。

今回は初の試みとして還暦を迎えた卒業生をご招待したため、例年の倍以上の参加人数でした。還暦を迎えた方々は、現在の学校を知らない方が多く、気にはなっているが学校に来るきっかけがなかった、と同窓会からの招待を大変喜んでいただけました。理事長、校長、シスター(東京から駆けつけてくださったシスターもいらっしゃいました)や恩師と、あちらこちらのテーブルが思い出話で盛り上がっていました。還暦の方には、同窓会より新成人に渡している記念品と同じストラップを『三度目の成人式』ということで贈呈。59回卒業生の葉山葵さんによるエレクトーン演奏も会場に花を添えてくれました。最後の集合写真では、入りきれないほどの大人数でしたが、会場担当の方のご尽力のおかげで素晴らしい写真撮影ができ、本当に感謝です。帰りの際の皆様の大満足の声に、役員としても大変嬉しく、今後も還暦の卒業生のご招待を続行して、ひとつでも楽しい思い出を増やしていけたらいいと思います。

